



ウトナイ湖通信

No.180

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

春の散策をお楽しみください

3月末に「道の駅」隣に展望施設が完成し、さらに魅力が増したウトナイ湖。高いところからの眺めを楽しんだ後は、自然観察路の散策がオススメです。

木々の葉が繁るまでは小鳥の姿を見つけやすく、また、美しいさえずりが聞かれ、バードウォッチングには適した



ハクチョウの小径。
5月中旬からズミの白い花が彩りを添える

時期。いくつかの小径を歩き、色とりどりの花を楽しむのも良いでしょう。当センターでは、夏鳥ウォッチングやウォークラリーといったイベントを開催しますので、これらにもぜひご参加ください。なお、春から初夏にかけては、周辺でヒグマの目撃例もあります。早朝や夕方の散策は特に、ご注意ください。



展望施設の最上階から見た当センター。
反対側には樽前山も

館内展示の解説ガイドが完成しました

当センターに来館いただいた際、館内のどこにどんな展示物があるのか、どのようなテーマと内容の展示なのか、見学の手引きとなる解説ガイドを作成しました。

エントランスに掲示しており、また、シートを持ちながら展示を巡ることもできます。素通りしがちな展示物の見学が、より楽しいものになるものと思います。どうぞご利用ください。



完成した「館内展示解説ガイド」の表と裏



卵塊とオタマジャクシを展示しています

当センターのエントランスで、今年もエゾアカガエルの飼育展示を開始しました。すでにゼラチン状の卵塊からオタマジャクシが泳ぎだしています。昨年同様、来館された方には、その様子を用品紙にスケッチなどで記録していただき、それを張ることで「成長日記」を綴ります。この飼育展示はこれから先、成体(カエル)になるまで、しばらく続ける予定です。



オタマジャクシが間近で観察できる



ベニマシコ

【自然観察路情報】

2019年4月12日(金) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

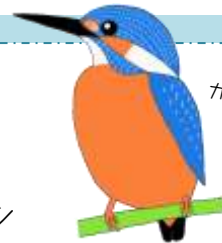
コブハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、キジバト、トビ、オジロワシ、オオワシ
カワセミ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ
ヒバリ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、種不明ハクチョウ類

《植物》

ナニワズ、アキタブキ、ハンノキ、バッコヤナギ、ハンノキ(以上、花)
フッキソウ(つばみ)、エゾニワトコ(芽吹き)、イヌコリヤナギ(綿毛の芽)

《ほ乳類・その他》

エゾシカ、エゾアカガエル(声)、オビカレハ(卵)



カワセミ



フッキソウ(つばみ)

【水鳥カウント調査結果】

2019年4月18日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類、水辺の鳥 * ()内は個体数、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(2)、コハクチョウ(2)、オオハクチョウ(3)、オカヨシガモ(1)
ヨシガモ(29)、ヒドリガモ(34)、アメリカヒドリ(1)、マガモ(140±)、カルガモ(2)
ハシビロガモ(9)、オナガガモ(4)、シマアジ(2)、トモエガモ(1)、コガモ(37)、カワアイサ(19)
カイツブリ(1)、カンムリカイツブリ(1)、カワウ(2)、アオサギ(2)、トビ(4)、オジロワシ(5)
オオワシ(4)、チュウビ(2)、カワセミ(1)、ハクセキレイ(3)、種不明ハクチョウ類(14)



マガモ



5月の自然予報

本州以南や東南アジアで冬を越していた夏鳥が続々と渡って来ました。ツバメ、ヒバリ、アオジ、クロツグミ、ノビタキをすでに確認。これから先、オオジシギ、キビタキ、オオルリなどが到着するでしょう。美しい姿と声を楽しめる季節です。

ガン類やハクチョウ類の渡りはすでに終わり、水辺ではアオサギなどが見られるのみとなりました。

明るい林では地面に黄色のキジムシロやエゾタンポポ、青色のフデリンドウやタチツボスミレ、白いフッキソウやツボスミレなどが咲き、急に華やかになるでしょう。



シオヤトンボ。ヨツボシトンボと同じ5月に出現する



林に渡って来た夏鳥のアカハラ



水辺に渡って来た夏鳥のコチドリ

下旬にはエゾハルゼミの「ミョ〜ミョ〜ガガガ…」という合唱で賑やかになるでしょう。

水たまりではエゾアカガエルのオタマジャクシが見られるようになるでしょう。

【 エゾタンポポ 】

北海道に自生する在来のタンポポ。高さは20～30センチ、黄色い頭花(小さな花の集まり)の直径は3～4センチほどです。道路脇でも見られる外来のセイヨウタンポポとは異なり、明るい林の中で見られます。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれるのかも。

Q. 5月の明るい林床に見られるフデリンドウ。空色の花を上向きに咲かせます。さて、名にある「フデ」の由来は、次のうちどれ？

- (あ) 閉じた花の形が筆先に似ているから
- (い) 閉じた花が筆先のように柔らかいから
- (う) 閉じた花が筆先のように真っ黒いから



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ベニマシコ

体重 14g



搬入直後は、目を閉じ、開口呼吸をしていた



安静後は呼吸は落ち着き、飛翔能力も異常はなかった

2019年 4月 11日 くもり

苫小牧市内の建物の前で飛べずにいるところを保護

- 11:00 市民が飛べずにいる本個体を発見。しばらく様子を見ていたが、飛ぶ気配がなく捕獲。
- 13:00 保護センターに搬送。初診にて、明らかな外傷は認められなかったが、時折開口呼吸を見せ、口腔内に若干の出血跡を確認。
- 15:00 十分な飛翔能力を確認し、リリースに至る。

ベニマシコ (スズメ目アトリ科)

体長15cm、夏鳥として知られていますが、道南など積雪の少ない地方では越冬する個体もいます。平地から低山の草原、湿原などに生息し、草の種子や昆虫類を食べます。ベニマシコの“マシコ”は漢字で“猿子”と書き、正面からみるとサルの顔のように見えるためと言われています。(諸説あります)

イベント情報

春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月27日(土)～5月6日(月・祝振)
10:00～16:00

定員：なし 対象：どなたでも

申込み：不要。当日随時受付

内容：約500mの自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。(解答用紙を持って、それぞれ自由に問題を解いていくイベントです)

ウトナイ湖・夏鳥ウォッチング

～美しい姿とさえずりを楽しもう～

日時：5月26日(日) 10:00～12:00

対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

定員：先着20名

申込み：5/1から前日まで

内容：南の地方で冬を越していた夏鳥たちが渡ってきました。林や湖岸を散策しながら、センダイムシクイやキビタキなどの姿とさえずりを楽しみましょう。

市民ギャラリー

「第16回 野鳥展」写真展

日時：4月27日(土)～5月26日(日)

展示：笠水上 徹明さん

「木工展 ウッドターニング・ボウルターニング」

日時：4月21日(日)～5月19日(日)

展示：金子 進さん

大型連休(GW)期間中の開館について

☆ 4月27日(土)～5月6日(月・祝振)の

GW期間中は休まず開館いたします。

☆ 5月7日(火)・8日(水)は閉館となります。

お知らせ

年間行事案内をご利用ください

当センター主催イベントの年間予定表を発行しました。バードウォッチング、ウォークラリー、渡り鳥フェスティバル、野生動物に学ぶ救護セミナー、小学生を対象とした夏休みスペシャル、自然案内ボランティアの募集説明会など、今年度もさまざまなイベントにご参加ください。なお、この予定表は、近日中に当センターHPからもダウンロードできるようになります。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

